Top Message 「なぜ？ 可能性は無限大」

富信はこれまで金属製締結部品の製造を通じて、自動車をはじめとする工業製品を支えてきました。お客様の要求に応え常に挑戦し続ける姿勢が評価され、創業から50年を超える成長を続けてこられたものと考えています。

そして次の50年を見据えたとき SDGs は先送りすることができない喫緊の課題であることは間違いありません。

富信の企業理念『**なぜ？可能性は無限大**』は、まさに挑戦し考え続ける姿勢を表しており、持続可能な社会を築くために当社の従業員という個人と、企業組織として挑戦し続けます。

株式会社 富信は、持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

代表取締役社長
各務 正敏

サステナビリティ

「 SDGs宣言書 」

富信は SDGs に取り組む姿勢を『**SDGs宣言書**』としてまとめました。また「ESG推進室」を組織し、活動を集約するとともに社員へのSDGsの意識付けなどを行っています。

富信の SDGs に関する情報や活動は、下記の公式SNSでも公開しています。

SDGs宣言

株式会社 富信は、地球環境保護が世界共通の最優先課題であると認識し、常に「なぜ？」を考えることで可能性は無限に広がり、挑戦する姿勢で未来を創り続けます。

最小限の環境負荷による製品製造

株式会社富信は、塑性加工技術を極め、精密金属部品の製造に伴う金属くずの発生を極限まで減らすことで環境負荷の低減を目指します。
また、製品製造に使用するエネルギーの削減および再生エネルギー化に取り組み、CO2削減に努めます。

働きやすい雇用環境

株式会社富信で働くすべての人が健康で、人権が保証され、またダイバーシティを考慮し、安心して働ける職場づくりを目指します。

特性を生かした地域貢献

株式会社富信は、周辺地域の特性を生かし、自然を守り地域に貢献する活動を推進します。

2022.04.25
株式会社 富信
代表取締役社長
各務 正敏

Tomishin なぜ？可能性は無限大
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

脱炭素社会の実現

深刻な環境破壊は地球上のいたるところで起きており、人間を含む生物の存在を脅かしつつあります。その中でも、近代産業の発展に伴って増え続けた “温室効果ガス（GHG）” は異常気象や自然災害の原因とされ、主に二酸化炭素（CO_2）の影響が大きいと言われています。

今、私たちが生きていく地球環境を保護し改善しない限り、事業どころか人が生きていくことすら困難になります。

こうした状況を受け、富信は脱炭素を目指すことを決め、**【 2030年までに CO_2 排出量を2021年度比50%減（Scope1,2）】**を目標として削減に取り組んでいます。

SBT認定

富信は2023年2月、温室効果ガス排出量削減に関する国際的イニシアチブ**「SBT（Science Based Targets）」**の認定を取得しました。

SBTは、パリ協定（世界の気温上昇を産業革命前より2℃を十分に下回る水準（Well Below 2℃）に抑え、また1.5℃に抑えることを目指すもの）が求める水準と整合した、5年～15年先を目標年として企業が設定する、温室効果ガス（GHG）排出削減目標です。

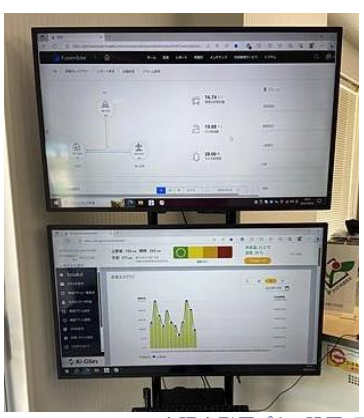
SBT水準目標は基準年に対してCO_2排出量を42%減とされていますが、富信ではこれを上回る**50%削減を目標**（SPTs：Sustainability Performance Targets）に定めました。

SCIENCE BASED TARGETS
DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

Ambitious corporate climate action - Science Based Targets

太陽光発電システム

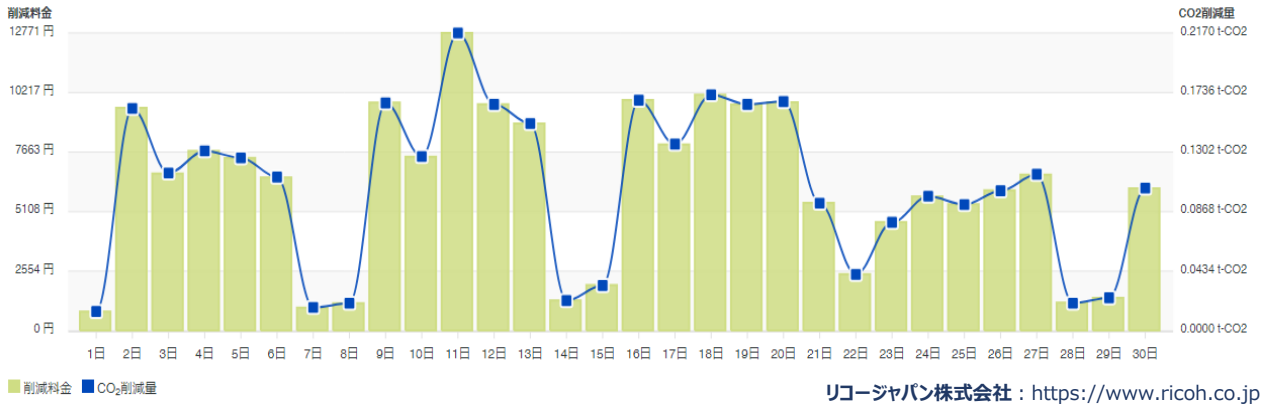
富信では、再生可能エネルギーの代表ともいえる太陽光発電パネルを設置し2023年8月から稼働を開始、翌年8月には第二期工事を行い、CO_2排出量の低減に貢献しています。



太陽光発電パネル設置・写真提供
株式会社ウエストエネルギーソリューション：https://www.west-gr.co.jp

空調機器集中制御システム（EMS）

富信は、2023年5月に空調機器集中制御システム（EMS：Energy Management System）を導入し、作業環境の快適性を損なうことなく空調を適切に制御し、電力およびCO_2を削減しています。



リコージャパン株式会社：https://www.ricoh.co.jp
https://www.ricoh.co.jp/magazines/green-transformation/casestudy/tomishin/

CO_2フリー電力

脱炭素への取り組みとして、富信では電力の一部を**「CO_2フリー電力」**に切り替えています。

「CO_2フリー電力」は、再生可能エネルギー（太陽光、風力、水力、地熱、太陽熱、大気中の熱その他自然界に存在する熱、バイオマスで、枯渇しない、どこにでもあるCO_2を排出しないエネルギー）により作られる電力で、地球温暖化の抑制に貢献できます。

このほか電力使用量削減を目的としたプロジェクトチームを社内に編成し、さまざまな省エネ改善を進めています。

ESG

ISO14001環境マネジメントシステム（Environment）

富信は2003年に ISO14001環境マネジメントシステム（EMS：Environment management system）を登録し、その維持と継続的改善に取り組んでいます。

環境に配慮した新事務所棟

2024年7月、製造業としては珍しい木造建築の新事務所が完成しました。

木造建築はCO_2を固定し排出を抑える工法として注目を集めており、今回は県内業者様の全面協力によって岐阜県産木材を約90%を使用し地産地消にも貢献しました。

そのおかげで木材の香りに包まれ、その温かみや優しさを感じられる空間が実現しました。

社会貢献（Social）

岐阜県は SDGs 達成に向けて積極的に活動しており、富信もその活動に参加しています。

① 『**「清流の国ぎふ」SDGs推進ネットワーク**』への参加、登録

② 岐阜県が登録制度を設けている**「SDGs推進パートナー」**に、2023年10月シルバーパートナーとして登録されました。

③ 県内他業種の事業者様と連携も進められるよう、岐阜県が運営する**「SDGsポータルサイト」**に登録しました。

GIFU SDGs SILVER PARTNER

地域社会とのつながり

周囲に自然が多く残されているこの地では、その恵みを感じられる機会も多く、こうした自然環境を保護し共存することの大切さを強く感じます。

① 富信敷地内で飼育しているヤギは、会社敷地だけでなく出張して地域の除草作業に活躍しつつ、その人懐こさからふだんはお客様の “接待役” として癒しを与えてくれます。

② 2019年『**農村やおつ**』として遊休耕作地の活用による農業を立ち上げ、野菜やお米を栽培しています。
収穫された野菜は社員へ配布するほか、お米の一部は地域貢献と富信を知っていただく目的を兼ねて、八百津町産業文化祭で販売しました。

2024産業文化祭限定ロゴ

③ 通学路での子供たちの見守りや、周辺道路の清掃活動など、近隣地域あっての富信、と考え活動に協力しています。

労働環境の改善

富信では、仕事と家庭や個人の生活を両立できるよう労働環境の改善を進めており、その結果として “若者の採用・育成に積極的でその雇用管理の状況などが優良な中小企業” として評価され、引き続き厚生労働省より『**ユースエール**』認定を受けています。

また、仕事と家庭の両立支援に取り組む企業である『**岐阜県 ワーク・ライフ・バランス推進企業**』にも登録されています。

ガバナンス（Governance）

① 公正な事業活動

富信は、お客様や仕入れ先様、社員や地域社会の方々といったすべてのステークホルダーに対して、いかなるときも真摯であるべきと考えます。

ISO9001 品質マネジメントシステム（QMS）を 2000年に、さらに2014年には JIS Q9100 航空宇宙・防衛産業に特化した品質マネジメントシステム（AS-QMS）を登録し、これらに従った管理を維持し継続的な改善を行うことで、信頼され選ばれ続ける品質づくりに取り組んでいます。

② インターネットセキュリティ

製造業としてサプライチェーンの一端を担う富信は、コンピュータウイルスや外部からの不正アクセスなどに対する情報セキュリティ対策も必要です。そのため社内に「情報セキュリティ委員会」を設置し社内教育や、外部から社内ネットワークへの侵入を防ぐファイアウォール設置、各端末の適切なアップデート、アンチウィルスソフトによる常時監視システムの導入など、自社だけではなくお客様や仕入れ先様にもご迷惑をおかけしないための予防策を構築しています。

③ 情報セキュリティ

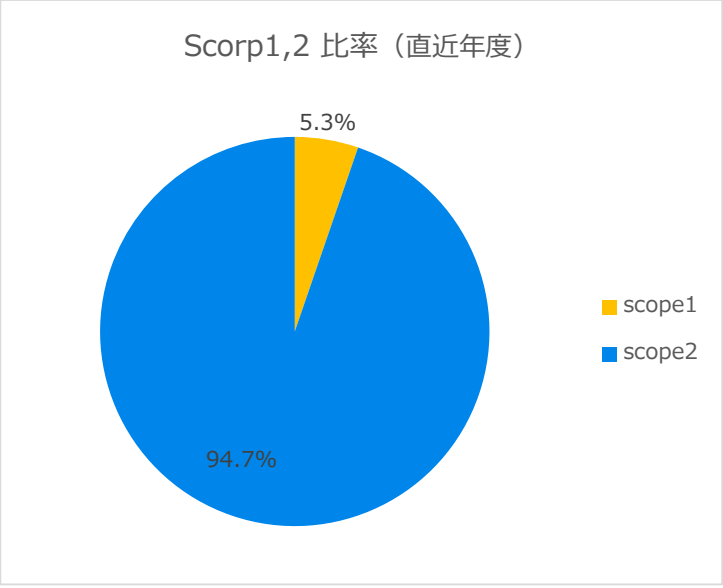
富信は、個人情報やお客様の情報などが流出することのないように厳重に管理するとともに、『情報セキュリティ基本方針』を定め web site で公開しています。

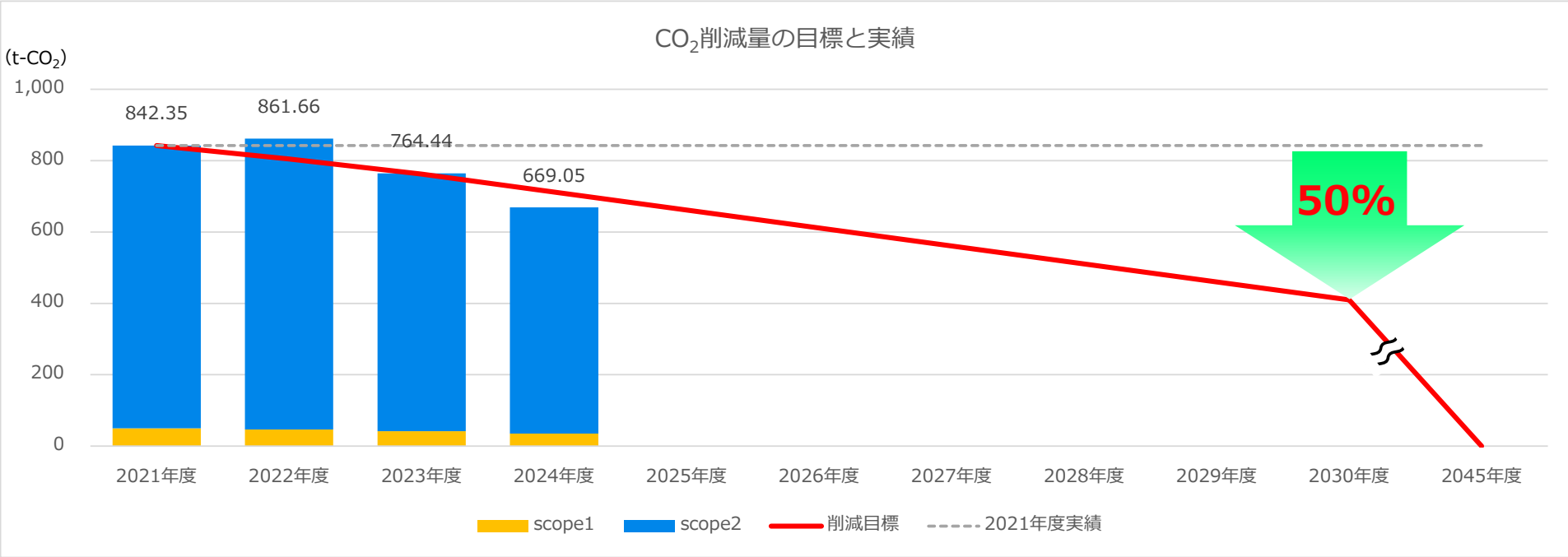
カーボンニュートラル（Carbon Neutral）

CO_2排出量

	Scope1		※ Scope2		合計 ($t\text{-}CO_2$)	目標比
	重量（$t\text{-}CO_2$）	比率	重量（$t\text{-}CO_2$）	比率		
2021年度	49.78	5.9%	792.57	94.1%	842.35	-
2022年度	46.30	5.4%	815.36	94.6%	861.66	107.1%
2023年度	41.52	5.4%	722.92	94.6%	764.44	100.3%
2024年度	35.28	5.3%	633.77	94.7%	669.05	94.0%

※ Scope2はマーケット基準





2024年度は、太陽光発電、EMS（Energy Management System）の稼働や節電活動、省エネ機器への交換により、削減目標を達成しました。